

## 第2回安曇野市水道事業運営審議会 会議概要

- 1 審議会名.....平成23年度 第2回水道事業運営審議会
- 2 日 時.....平成24年1月19日 午後1時30分から午後3時10分まで
- 3 会 場.....安曇野市豊科総合支所 第2会議室
- 4 出席者.....矢ヶ崎会長、務基副会長、市川委員、藤原委員、磯野委員、  
松村委員、市川委員、加々美委員
- 5 市側出席者.....関部長、中野課長、古幡課長、水谷係長、奥村係長
- 6 公開・非公開の別.....公 開.....
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....2人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成24年1月23日

### 協 議 事 項 等

(開会) 午後1時30分

- ・開会 (中野課長)
- ・あいさつ (関部長)
- ・あいさつ (矢ヶ崎会長)

報告 三郷地域の水道水の濁りについて (資料に基づき事務局で説明)

議事① ①三郷地域水源転換について  
(議事①資料に基づき事務局で説明)

会 長

何か質問等がありますか。

委 員

水源転換の工事完了年度はいつか。

事務局

水源転換の工事完了年度は、豊科から送水する部分もあるので、平成27年度末、平成28年の3月末を見込んでいます。

委 員

平成27年度の末ということは、集中豪雨や台風など今後も想定されるが、三郷地域の住民は工期について納得しているのか。もう少し緊急課題として工期を繰り上げるなどの地元からの要望はなかったのか。

事務局

施設を造っていくうえで手続きがあるが、まず水を小倉地区に送水するというので優先している。全体が完了するのが平成27年度だが、小倉地区へ送水して小倉配水系を自立させるといのが平成26年度で考えている。

委 員

説明の中で物理的な説明はあったが、人的な説明は何もない。どのような体制を組んでいくのか、説明がない。工事完成までの間の、災害への対応はどのように考えているのか。

事務局

黒沢の浄水場については、緊急時は職員が24時間体制で浄水場に詰めるということを計画している。

委員

三郷地域の災害時に給水車がきたが、あの程度の給水車では給水が追いつかないと判断したが、対応はできているのか。

事務局

平成23年の12月末に給水車を1台購入した。加圧式の給水車で、他にタンク(水槽)も手配した。

委員

三郷の水源転換で、四つの案から選んだ場合、評価点が高いのは第3案ということは理解できるが、工期が一番短い案はどれか。

事務局

工期については、どの案もほぼ一緒。ただ新たな井戸を掘ると、そこで調査が入るので時間がかかる。また確実に小倉地区に送水するということを考えると、第3案になる。

委員

第2案の説明の中で、「野沢の方が古い」という説明があったが、古いというのは建物の事か。

事務局

確かに井戸を掘ってからの年数はかなり経っている。例えば今130mのところまで掘って日量1,000 $\text{m}^3$ の水がでていますが、それを170mとか200m掘っても同じ敷地なので、両方から取水することはできない、古い井戸を廃止して新たに深い井戸から約1,500 $\text{m}^3$ 取水する。ただ電気探査の結果だけなので、実際に掘ると水が出ないこともあるが、約500 $\text{m}^3$ くらいは増えるのではないかという形の案。

委員

災害時に全市的に断水になった場合、給水計画はあるのか。

事務局

災害地域が小さいものについては、穂高・三郷・明科に拠点配水池があり、緊急時に給水場となるが、緊急遮断弁によって地震で揺れた時に遮断弁により水を蓄える。災害地域が大きくなると安曇野市だけでは対応できないので、長野県外も含めた他の自治体から応援してもらう。また今の配水管は、旧5町村内での配水管となり、地域を越えての配水管とはなっていないので、今後は相互に送水ができるよう考える。このほか松本市と安曇野市が協定を結んで、相互に送水ができるよう計画もする。

委員

例えば三郷地域の災害が長期化した場合は、どのくらいの給水能力があるのか。

事務局

今回の三郷の災害では公民館ごとに給水場を開設できたが、市全体など災害が広範囲になると給水場としての数が少なくなる。

委員

今回の三郷地域の災害経過のチラシは全市に配付され防災意識を高めるべきで、三郷だけの問題ではないという意識を持たないといけない。

また、三郷地域の災害の時は水道運営審議会としてどう対応するべきか考えた。しかし、水道事業運営審議会の開催通知も届かなかった。それで今日出席したら決まったことを了解していただくという審議会になってしまった。

委員

安曇野市の水道水についても放射性物質の検査を行っているのか。

事務局

黒沢川の表流水は大気に触れているので放射性物質の検査を実施したが、放射性セシウム等は検出されなかった。また結果についても市のホームページで公表している。

委員

深井戸の水は地下水保全の話でもあるが、汲み上げて大丈夫なのか。  
また豊科から送水ではなく三郷で井戸を必要なだけ掘ればどうか。

事務局

山葵組合等と話し合い、了解をいただいている。

確かに、三郷に井戸を掘れば管路等が短くなって工事費は安くなるが、ただ試掘した井戸が日量2,000m<sup>3</sup>取れるからといって、その近くに掘ればまた2,000m<sup>3</sup>取水できるという解釈にはならない。また豊科と送水管が繋がっていると相互に助け合えるというメリットもある。

委員

水道運営審議会委員として三郷地域の災害等、知っておかなければいけないことは連絡がほしい。

会長

それでは、議事の②今後の進め方等についてお願いします。

事務局

今後の水道運営審議会の進め方で、豊科と三郷の事業統合を実施すると、料金改定や料金統合が関係する。料金の改定を含めたうえで、平成27年度までの将来的な財政計画を作成し、審議会で議論していただきたい。また最終的には水道運営審議会では、平成24年3月末までに結論をだしていただければと考えている。

会長

それでは、議事③その他をお願いします。

事務局

三郷地域の災害の際は、何も連絡が無かったという意見をいただいた。大変ご迷惑をお掛けした。今後は意思の疎通があるように対応していきたい。

会長挨拶の後、閉会。

会議終了 午後3時10分